

韓国環境部プレスリリース 2020 年 1 月 30 日付

京畿道と江原道野生いのししから ASF ウイルス検出 (野生いのしし 125-130 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1224850&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は江原道(カンウォンド) 華川郡(ファチョンゴン) 華川邑(ファチョンウプ) 豊山里(プンサンリ) で発見された野生いのしし死体 3 個体と京畿道(キョンギド) 坡州市(パジュシ) 津東面(チンドンミョン) で発見された野生いのしし死体 2 個体および捕獲された 1 個体で ASF ウイルスが検出されたと 1 月 30 日明らかにした。

華川郡華川邑豊山里で発見された死体 3 個体は、1 月 28 日、山で環境部捜索チームによって発見され、坡州市津東面で発見された死体 2 個体は、同日農業経営者によって畑で発見された。残りの 1 個体は 1 月 27 日、ハンターによって捕獲された。華川郡と坡州市は野生いのしし ASF 標準行動指針により試料を採取して現場消毒と共に死体を処理した。

国立環境科学院は 1 月 30 日野生いのししの死体から ASF ウイルスが検出されたことを関係機関に通知した。これで華川郡では 28 件、坡州市では 45 件の野生いのしし ASF 陽性となり、全国的には 130 件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は"今回の 6 個体は全て広域フェンスの中で発見された。この地域では感染した死体がさらに出てくる可能性が高いので、捜索を徹底している"と話した。

以上